

狩猟

見縊らないで下さい。「狩猟」を 見た目以上に過酷な仕事

名人 植田 年明・岡山県真庭市

聞き手 高沢 凛・兵庫県神戸山手女子高等学校2年

※狩猟は趣味ではありません。

はじめに

植田年明です。昭和32年2月18日生まれです。家族は妻と、猫が数匹います。昔は狩猟と6月から11月までは森山大根の輸送や農業の手伝いをしてましたよ。今は狩猟をやりながら山から木材を伐り出し、出荷する仕事と月に7日ほど森山の温泉で風呂番をしている者です。

植ゴンが植田名人になるまで

生まれは旧真庭郡勝山町、現在の真庭市です。真庭市は今も昔もずっと変わらん。ボツンと一軒家みたいな所。なんにもなくて辺り一面森・山って感じ(笑)。そんな山奥の中で育った私は小・中学生の頃は特に目立つ子でもなく、平凡に生活してましたよ。ただ変なあだ名を付けられていましたね。当時流行ってた4コマ漫画で「はじめ人間ゴン」っていうのがあつ

昔の経験が今に

たんよ。その漫画の主人公がゴンっていう名前だな、なんでかよく分からねえけど苗字の頭文字の後ろに付けて、植ゴンって呼ばれてましたよ。それから中学校を卒業して、津山市にある作陽高校に入学しました。私、高校に入ったらしたい事があって、それがね、部活だったんですよ。でもねえ、私、運動が苦手やし、走るのも駄目で(笑)。運動苦手でも出来る、走らなくてもいい運動部ねえかなあって思ってたのが弓道部。「これなら走らんでええ！」って思ってた、入部したけど間違いやったね。しつかり走って運動する部活やって、大変やったのは今でも覚える。高校時代の思い出は体育祭。運動出来んくせに2年の時は副団長、3年で団長を務めましたよ。優勝はなかったけど我ながら面白かったです。色んな経験を培って今の私がいるんですよ(照)。

狩師になろうと思っただけは完全に親父じゃな。昔、冬になったら、

よく親父が山へ行っ
とったけん。当時私
は中学2・3年生で
な、冬休みによく親
父と山に入ったよ。

その頃はイノシシや
シカは滅多に捕れん
かって、捕れた時は
私が動物の鼻に紐を
通して肩に提げて。



真庭の山

親父について山歩きよった。動物抱えて親父の後について行くのが嫌とい
うか、どうせ山入るなら銃使ってやりてえなと思つてな。それが狩猟しよう
と思つたきつかけやな。それから高校を卒業して、家業の酒屋を手伝い
ながら狩猟免許の勉強もして大変やつたけん。それでも猟期には毎週の
ように山に入って仲間たちと巻き狩りしてそれはそれは楽しかったけん。
巻き狩りっていうのはな、丸い罠を想像して中心に獲物が居ると仮定して、
罠の所で撃ち手が待つけん。それで獲物によつてな通る道が決まるとるん
よ。その道に追い手本人が行くか、犬で獲物を追う、狼のことをいうけん。最
近は猟師の減少や高齢化で出来んようになつたけん。

猟師になるには

まず20歳にならな駄目やけん。20歳になったら、自分の住んでる市の警
察署に行く。警察の生活安全課いうところやな。そこ行って「銃所持の講
習を受けたいんですけど」言うたら手続きとかしてくれるけん。手続きが
終わったら警察が「じゃあ何月何日にどここの会場に来て下さい」言い
よるからそこ行って講習、最終日に試験。試験に受かったら狩猟免許が貰

える。受かったら1ヶ月以

内に銃を持たないといけん
のよ。免許を取得して1ヶ
月以内というのはその期間
を過ぎるとな、本人が狩猟・
射撃をする意思が無いとみ
なされ、銃の所持が遅くな
るんよ。厳しいと思うかも
しれんが命に関わる仕事や
けん、中途半端にはさせれ

んのよ。銃も自分で買うけん、鉄砲店とか射撃場とかで銃が売れるんよ。銃
買う時はな、自分の体型に合った銃を見させてもらう。売れる所に行つて、
あつこの銃が良い思つて持っても体に合うか、重たいかとか撃つた時の反
動で体が衝撃を受けへんかもしつかり確認しなあかんね。射撃場に練習用
の銃が何種類もあるけん。所持許可証があれば試し撃ちが出来る。何回か
試してみても良いかもね。試し撃ちせんと撃つて、中には鎖骨折る人がお
る。銃の火薬の衝撃で。見
た目で決める奴はおらんけ
ど、いかに自分に合った銃
を選ぶかが大事やね。それ
で銃持って、免許も持って
射撃場行けば見た目は一人
前の猟師や(笑)。

山への勝負服

基本的に靴は長靴かスバ



実際にシカの死骸を持った後の軍手



「瀬戸国際射撃場」 真庭市にある射撃場

イクヤし、服は下だけかっぱを履く。私のはそこまでしつかりしとらん薄いかっぱやな。あと軍手、これは必需品。最近はやマビル、ダニがすごいけん。噛まれたら痒いから、虫が入ったな思ったらすぐ軍手とる。獲物の死骸を運んだ時とかすごいけん、軍手に数十四匹のダニがついとる。もう気持ち悪くてその軍手はよう触らん。最後にオレンジ色のハンター帽被った完成。真庭の猟師の奴は大体この格好やけん。この格好したら高瀬さんも真庭の山に入れるよ。

■植田さんのルーティン（仕事内容）

まず朝一、車出して行く所は自分がかけた罠、そこに動物がかかるとるか確認に行く。全部で5、6個罠を仕掛けてるけん。ウサギや鳥を捕る小さい罠からイノシシやシカを捕る大きい罠も作とる。罠を確認して今日もいないなあ思ったら、次は、罠が荒らされてないかの確認。よくイノシシが山の上の方から降りてきて、罠で育ててる大根の葉っぱを食い荒らしよるけん。それが嫌でな、最近では罠の周りを電線（図1）で囲んどるんよ。人間がボタン押したら電流が流れる仕組みでな、私が見に来れへん夜とかにはこれ使つて罠を守とる。

狩猟の主な仕事は罠がメインかな、70%くらい。銃罠は、色んな事件、事故があつて危険が伴うから、15年前から罠猟になりつつある。図2は「くくり罠」。この罠は、イノシシやシカなど野生鳥獣を捕獲する為の罠の一種や。獲物が通りそうな敷道にあらかじめ罠を仕掛けてな、獲物が足で罠を踏み抜くとバネの力で罠が作動する仕組みや。ワイヤーが獲物の足を括り捕獲する。でも、最近ではあんまりくくり罠では捕れんようなつとるな。なんせ獲物が罠の場所を覚えとるけん。シカなんかは特に頭が良い。罠を避けて通りよる。捕れたらラッキーぐらいでみんな仕掛けとるな。前は鉄砲撃ちが楽しみでやつてたんだけど、今は有害鳥獣駆除で報奨金を貰つとる。



電線を操作する機械



図1の電線



実際に捕ったシカ



図2のくくり罠

■猟犬の性格に合った任務を

一般的に猟犬で使われるのはビーグルという犬種の大。ビーグルというのは、要は医療関係とかで薬品を作った時にテストにおうてる（使つてる）犬。ビーグルもいくつか種類があるから、気性の荒い犬なんかはイノシシでも向こうて行く。それで使えよつた人もおるし、西洋犬でもイノシシなんか追跡する専門犬みたいな犬もおる。だいたい日本犬の甲斐犬とか紀州犬はイノシシに食いつくいうか、イノシシを倒そうとするような格好で向こうて行くから、そういうのを連れてイノシシを捕りに行く。犬も人間と同じやけん、頭を使う犬か体力で勝負する犬か、それを見極めるのも大切

あんまり薄められ

た趣味じゃないん

やけどな。やつぱ

り運動になるし、

面白い。そういう

気持ちがあつたか

ら罠をしとるわけ

やけど、今はシカ、

イノシシ、アライ

グマ、ヌートリア、

ハクビシン、カラ

スを捕獲して市の

ほうに捕獲した

よつて報告すると

報奨金が貰える。

シカ、イノシシは

グループで捕る人

たちもおるよ。私

は基本的に単独で

してるけどな。よ

く捕るグループは良い場所

で一度に10頭くらい捕つて、

また行つて10頭捕

る。それで捕つた獲物の尻尾を切つて、

獲物に日付を書く。書くつていつ

ても獲物に書く用の塗料があるけん、

それでその獲物をいつ捕ったか

日付を書く。最後にいつ捕ったか

グループで捕ったのかを書類に書

く。それで市に出す準備は出来た。

後は出して市からの報奨金を貰うだけ。

これが私の仕事内容。

な猟師の仕事やな。

■相棒は猟犬

ウサギやシカはビーグルを使う猟師が多いんやけど、今、鳥獣では犬は色々皆さん好きな犬を使いよる。犬も色々おるんだけど犬にも性格があるから、一番使い慣れた犬がお薦めやな。私はポインターという犬種を使つとる。ポインターというのは、ちょっと変わった習性がある、獲物を見つくとハンターの前方に立ち止まって姿勢を低くして、鼻先を突き出して片足を上げるポーズをとるんよ。「ポインター（獲物）を見つけたよ」という意味や。後は、セッターという犬種の大もよく猟犬に使われる。セッターというのは、獲物を見つけたら、見つめてその場で伏せの姿勢をするんよ。「セッター」状態でじっと待つ犬や。私の近所の猟師らはポインターとセッターが多いんやけど、さっき言ったウサギやシカはビーグル系が多いんだけど、ビーグルというのは足が遅いんよ。だけど嗅覚はあるから諦めずにウサギを通つたところを探して、ずっと追いかけてるんよ。だけどウサギは山をぐるぐると回つてまた元の位置に帰ってくるから、帰ってきたところをパンツとウサギを撃つわけ。そこで仮に外れたら、ウサギは逃げるわな。そうして待ってたら犬が帰ってくるわけやな。そしてまたまた追う。次はちょっと場所を変えるわけやな。そこにもまた帰ってくる。だから何回も獲物に対して撃てるわけやな。でも鳥はそれがない。逃げたら飛んで山すら越えて遠くの方に行つとるけんね。だから捕れんくてもバツと引き上げられる。でもウサギやシカの大はしつこいから、日が暮れてきても追いかけるいうような格好になる。鳥は勝負が早いんよ。結果が良くても悪くてもそこで帰れる。ウサギやシカは捕れんかったら犬がなんぼでも追いかける。ウサギやシカもしてたけど、家の近くだったから諦めて家に帰ってくるよ。まあ捕れんことも多いけど。猟師と猟犬はこうやつて狩猟をしよ



イノシシやシカなど（大動物）に使う罠



ウサギや鳥など（小動物）に使う罠

る。猟犬がおらな出来ん狩りもあるくらいや。猟師にとって猟犬は大切な存在だよ。

■猟銃の特性と歴史

銃にも種類があつてな。私はブローニングと空気銃の両方を使つとる。

①ブローニング銃

ブローニング銃はな、もともと軍隊に使われる事が多かった銃なんよ。この銃は西部開拓時代末期から現在まで活躍し続けている銃で、今でもアメリカ陸軍が重機関銃（ブローニングM2HB）を使っているくらいや、歴史深い銃やけん。真庭市の猟師はブローニング銃を使つとる人が一番多い気がするな。

②空気銃

私が使つとるもう1つの銃は空気銃。空気と不燃焼のガスによって弾丸を発射するライフル銃やけん。ライフル銃っていうのは弾丸に回転を与えて命中精度を高めるために、銃身の内部に螺旋状の溝が切つてある小銃のことや。空気銃は射撃精度が高く、狩猟用・競技用に使用される事が多い銃やけん。

2つとも猟銃の中では比較的使いやすい方ではあるかな。

どんな猟銃買おうか迷つとる人があるなら、私はブローニング銃と空気銃を薦めるかな。

■狩猟に惹かれる私

狩猟は楽しいよ。猟犬と一緒にしよる人もおるし、グループでやる人もおる。狩猟は簡単に言えば対戦ゲームみたいなものだよ。グループで戦つ

たり、アイテムを使って敵を追ひ込んだり。獲物を狙い定めてバンッて撃つた時は、もう快感やね。狩猟は怖がつてやるもんじやないよ、楽しみながらやるもの。

■現実と夢

銃刀法関係が厳しくなつて、警察も厳しくなつて、試験も難しいからか猟師はどんどん減つてる。まあ銃は凶器やけん、なかなかやつちやろう思う人がおらんし、猟銃は普通の警察が持つていない銃と比べてとても銃身が長いから遠くまで当たる。だから遠くの獲物でも捕まえることができるんよ。そういう危険なものだから警察の方もうるさいけん。いつか真庭市の猟師の奴らも全員おらんなるんちゃうかと心配になる。私みたいに60代の人もおれば80代くらいの人もおる。少しでも銃を使つた猟の楽しさをもつと多くの人に知ってもらいたいな。真庭市には若者があんまりおらんよ。狩猟の良さを伝えたいが、伝える人がおらん。みんな成人したら都会に行きよる。それも楽しいし否定はせん。だけど、伝統いうたらおかしいかもせんが、昔から引き継がれてる真庭市の狩猟を私はここで終わらせたくはない。今の狩猟の現実を若者とこれからを引っ張つていく世代の人に私は伝えたいな。それが私の夢や。

■悲しくないわけねえだろ。でも…

「猟師やつてます」って言つたらみんな言うんよ。「動物殺して悲しくないんですか？」って。そりや悲しいよ。猟師は殺す分、最後まで責任取つて処理しなきゃいけない。まだ温かい、息もしよるのを銃で撃つたり縄で絞めたり、ナイフでとどめを刺しよる人もおるけん。そんなの悲しくないわけねえだろ。例えばな、私が親子のイノシシを捕獲したとする。親の方が警戒心が強いけん、それにイノシシの子どもを先に殺すと親が逆上して

趣味なんかじゃねえ、立派な仕事や。

「取材日…2024年9月15日、10月27日」



お世話になった（左）荒田会長（右）植田名人



命の素晴らしさを教えてくれたシカ

【聞き書きを終えての感想】



「猟師になれないな、私は」と思ったのが最初の感想です。

私が今回の聞き書き甲子園で狩猟を選んだ理由は、私自身動物が大好きで、動物と関わる記事を書きたく、猟師にも少し興味があったからでした。でも、こんな生半可な気持ちで行う取材内容ではありませんでした。今の真庭市の狩猟の現状や未来の事、植田さんの狩猟に対する気持ちを教えていただきました。取材の中で明るい話も多かったですが、私が聞いている限り、悩みや不安も多く話されていました。私が一番心に残っているのは、「死との向き合い方」です。動物を殺す仕事をする以上、死とは向かい合わせです。動物を殺す。その時自分はどう思うのか、自分が殺される側だったら、どのような気持ちになるか。悲しくなる。そんなの当たり前です。でも植田さんは使命感を持って狩猟をしています。狩猟を通じて普段感じる事が出来ない、狩猟という仕事をする事の意義や達成する気持ちを教えてくださいました。だから私は猟師にはなれない、なっても耐えられない。そう思いました。でも、それと同時にもっと狩猟を知ってもらいたい、植田さんや真庭市の狩猟の方たちの声をもっと多くの人に聞いて欲しいと思いました。私が出来なくても、狩猟という仕事の役割や現状を広める事は出来ると思います。そして私の記事を読んで少しでも興味を持ってくれる人がいるなら、今回の取材は無駄じゃない。植田さんの声を1人でも多くの人に届ける事が出来たら私の目標は達成したと言えるでしょう。



profile

植田 年明

うえだとしあき

昭和32年2月18日・68歳

職業：猟師

【略歴】旧真庭郡勝山町、現在の真庭市生まれ。幼い頃から父と山に入り父の姿を見て狩猟を目指すように。家業の酒屋を手伝いながら狩猟免許を取得。現在は、「有害鳥獣駆除」として猟師をしている。今は猟師をやりながら山から木材を伐り出し出荷する仕事と、月に7日ほど蒜山温泉で風呂当番などを手伝い真庭市を支えている。